２０１９年　３月

～第 76 号～

■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■

『イタイイタイ病を考える県民フォーラム』を開催しました

■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■

2 月 17 日（日）、「イタイイタイ病を考える県民フォーラム」を開催し、県内外から約 120 名の方々に参加いただきました。

今年で 7 回目となる今回のフォーラムは、飯田館長による開会挨拶、資料館事業報告から始まりました。

事業報告では、入館者の状況、資料館がイタイイタイ病について国内外の幅広い世代へ伝えて行くために行っている取り組みや、イベントなどの報告がありました。

～飯田館長による資料館事業報告～

続く石井知事の挨拶では、各関係者に向け過去のさまざまな困難の克服へのサポートや、ご尽力に対する感謝と敬意が表されました。

さらに、未来志向型で、環境と健康を大切にする県づくりについての決意が述べられました。

また平成 27 年 10 月 24 日の天皇皇后両陛下ご来館や、翌 28 年 5 月 16 日の G7 環境大臣会合後の大臣らの資料館へのエクスカーション（視察旅行）のことについても触れられました。

～富山県知事挨拶～

その後、次代を担う若者たちによるイタイイタイ病に関する学習発表会では、小学校・大学それぞれ 1 校ずつに、資料館を見学されての学習・研究成果の発表をしていただきました。

小学校の部は、富山市立古里小学校 5 年生の皆さんが、資料館見学がきっかけとなり考えたという、環境を守るために自分たちが出来ること、またその取り組みについて、パワーポイントや、校内でも掲示された壁新聞を用いて発表されました。

～学習発表会（富山市立古里小学校 5 年生）～

大学生の部は、富山国際大学子ども育成学部瀬戸ゼミの皆さんが「イタイイタイ病の教訓を後世に～若者へと語り継ぐ～」をテーマに、資料館の見学、学内で実施したイタイイタイ病についてのアンケート結果や、資料、新聞記事などから学んだこと、またイタイイタイ病の公害認定 50 年の節目の意味、次世代への継承の方法などについて発表されました。

～学習発表会（富山国際大学子ども育成学部瀬戸ゼミ）～

最後に、タレントやコメンテーターとしてご活躍中の高木美保氏に「命を感じて暮らす」と題し、ご講演いただきました。

全体を通して参加者からは、小学生や大学生といった若い世代の思いに感動し、深く心に印象付けられたといった感想が多く聞かれました。